

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300621		
法人名	有限会社ほうらい		
事業所名	グループホーム ほうらい小芝		
所在地 (電話番号)	北九州市戸畑区小芝1丁目6番10号 (電話) 093 - 871 - 8200		
評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	9月14日

【情報提供票より】(平成19年8月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2階～3階部分		
------	----------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)		円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(8月11日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共愛会・共立病院・健和会・けんわ病院(戸畑)
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

戸畑区の街なかの閑静な住宅街に立地し、1階は別の法人のデイサービスセンター、2階・3階がグループホーム「ほうらい小芝」となっている。共用部分は、ゆったりしており、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせる居場所が確保されている。エレベーターが木とガラスのドアの為、違和感がなく、2～3階に居住しているといった感じが無い。「ゆっくり、のびのび、楽しく」を理念として、入居者が日々明るく過ごせるように行事やレクリエーションに力を入れている。職員が幅広い年齢層で構成され、入居者が和気あいあい、家庭的で楽しい雰囲気をかもしだしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査では、リスクマネジメント(事故報告の届出)、個人情報の取り扱いについて指導があったので、月1回のミーティングでヒヤリハット・事故の概要報告の検討を行うように改善している。また、個々の利用者の処遇を検討し改善、それを運営推進会議にも報告など取り組んでいる。個人情報に関する課題も、医療機関・行政機関の手続き代行等、入居者及び家族等に説明し同意を得るように取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心となり、ミーティングを行い、全職員で検討し、随時改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催、地域包括支援センターの職員・民生委員・家族が参加して行われている。会議内容については、外部評価で指導されたことについて、職員で検討し改善内容の報告を行っている。また、年2回の避難訓練の結果を報告し、地域の人々への協力をお願いしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1回、レクリエーションや行事の様子を「小芝だより」として郵送している。又担当の職員が利用者の様子を手紙に書いて、写真と共に送っている。家族の意見や希望は意見箱を設置している。職員は面会時などに家族等の意見を聞くように努力をしているが、気軽に意見や苦情が言っていたらいいような関係づくりを目指し、家族会を作る予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	これまで地域で暮らしてきた入居者は、地域の老人クラブ等も継続して加入してもらい、老人クラブの行事に参加している。地域の方のボランティアとして、子ども会や老人会の踊りやダンス、琴や歌の演奏等を受け入れている。また、グループホームで行う行事については地域の方々に参加を呼びかけている。地域からの入居者が多いため、認知症の介護相談等の対応が求められている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として「ゆっくり、のびのび、楽しく」を掲げ、行事やレクリエーションを活発に行っている。また、デイサービスセンターや老人ホーム等と合同行事やレクリエーションを行い親睦交流を図っている。		従来の理念に加え、法改正により新設された地域密着型サービスとしての役割を反映した理念の内容が求められ、今後の中で「地域との交流」など理念の内容の検討が求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、共有空間の壁に大きく貼られており、職員は毎日朝礼で唱和し、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人クラブに入会されている入居者は、老人クラブの行事に参加している。地域からのボランティアの受け入れ、行事などの参加の声かけも行っている。		運営推進委員の協力を得て、地域の行事に個別的な参加を推進していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善項目として、月に1回ミーティングやカンファレンスに取り組み、その結果を運営推進協議会の議題として取り上げ、運営推進委員にも協議してもらい、意見交換を行うなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故報告やヒヤリハットに取り組み、利用者の処遇のあり方などを検討した。火災や非常災害時における通報・連絡体制のあり方についても協議し、地域の方々に防災訓練に協力してもらうなど、運営推進会議を地域との連携を高める大きな機会として捉え取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進協議会には、地域包括支援センターの職員2名が参加している。また、月に2回、訪問調査員の訪問を受けている。		運営推進会議以外での市町村との連携が求められ、市町村担当者に運営や現場の実情などを積極的に伝える機会をつくるのが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中に権利擁護を利用している方がいるので、この方の権利擁護のあり方をミーティングしながら、実際に学ぶと同時に研修会等にも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「小芝だより」を作成し、行事や外出した時の状況をお知らせしている。また、担当職員が写真と近況報告を手紙で知らせている。家族の訪問の際には、必要に応じて入居者の様子や状態を報告し、電話でも報告するようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状では、運営推進協議会も、面会時も不満や意見等は出ていないが、気軽に意見や要望・苦情などを言っていただけの関係を築くことが重要であると考えている。		気楽に意見や不満が言えるような家族会を作る予定で準備をしている。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、退職等による異動があるので、入居者には、ダメージを防ぐために早めに話し、混乱がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	性別・年齢などを理由に採用は行っていない。個々の職員とは十分な話し合いを行い、職員が生きがいを持って働けるよう対応している。希望する研修にも参加を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	研修等に参加して、利用者には言葉かけや態度に気を配り、人権を尊重する意識づけを図っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員の希望により、定期的に研修を行っている。外部の研修会の参加も支援している。職員とは個々に話す場を設け、早めに不満やストレスが解消されるように対応し、職員の希望にそうように努力している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	有料老人ホームや他のグループホームとの情報交換を行い、サービスの質を高める取り組みを行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には見学や相談に応じている。入居当初は家族に頻りに面会に来てもらい、不安や寂しさを感じないですむように対応をしている。また家族にも充分説明して協力をお願いしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	理念の通り、グループホームの雰囲気はノビノビしており、会話も活発である。利用者が遠慮なく職員にいろいろ要望しており、職員との良い関係が生まれている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	今までの生活や暮らしぶりを十分に把握し、利用者の思いや意向については職員全員で対応できるように取り組んでいる。月に1回ミーティングで検討し、出来る範囲で支援しようと努力されている。		利用者の生育歴・生活歴・職歴等を十分に分析し、個別的な対応を検討が求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	家族の希望や意向を中心に、職員でミーティングを行い計画を作成している。		職員全員が計画作成に関わり、対応出来るようにセンター方式の導入などを検討されてはいかがだろうか。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	ADLの低下や認知症の進行による問題行動が出現した場合、家族と話し合い計画を見直している。現状に即した計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族が医療機関の受診に付きそえない場合は、医療機関の受診付きそいや、なじみの美容院や自宅への送迎を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	家族や本人の希望による、かかりつけ医への受診を支援している。また、協力医療機関も4ヶ所あり、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	利用者の重度化に伴い、医療・介護との連携をどのようにしていくか、課題となっている。家族・主治医・職員・その他関係者全員で連携を取りながら、終末期のあり方を検討している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	言葉使いや態度に気を配り、利用者の自尊心や誇りを傷つけないように配慮している。特に排泄時のパット交換等では自尊心を傷つけないように特に注意をしている。記録の取り扱いにも配慮するようにしている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	行事等への参加や日々の生活での意思決定は、本人の意思に任せている。食事は一緒にされていたが、その他は、新聞を読んだり、歌を歌ったり、ベットで昼寝をしたり、自由に過ごされている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
納得					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	利用者が食べやすいように工夫して調理している。また、利用者一人ひとりの嗜好調査も行い、料理メニューなど工夫している。配膳の準備・片付けなど職員と一緒にしながら、職員の料理の工夫など説明したり、大変楽しい食事時間になっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	利用者の希望に合わせた入浴時間や入浴回数になっており、体調を考慮して気持ちよく入浴できるよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	これまでの利用者の生活習慣を知り、利用者の楽しみや喜ぶことを支援しているが、役割や楽しみごとなど、個別的な把握が更に求められ、具体的な分析が必要である。		アセスメントの結果を十分に分析して、その方その方の個別の楽しみを見出し、対応できるように支援することが望まれる。
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	買い物や散歩は利用者の体調や天候によって行っている。普段行けない所や個別の外出は月に1～2回支援しており、行事やドライブ・外食等を楽しんでいただけるようにしている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は鍵をかけていない。ドアには鈴をつけている。また、エレベーターのボタンには故障と張り紙を張り、エレベーターに乗ることを一瞬考える時間を作っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回非難訓練を行っている。運営推進会議に報告し、地域の方の参加・協力もお願いしている。運営推進会議では防災計画も検討し、地域との協力や連携を高める努力を行っている。災害時に備え、水や食べ物の確保もやっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	水分補給を定期的に行い、常時テーブルにお茶を飲むようにしている。毎食、食事をチェックし、必要なカロリーや水分が摂取できているかを確認し、利用者の体調管理や様子観察を行っている。献立は同法人の管理栄養士が作成している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間や廊下は広くゆったりとしており、ソファー・テーブル・テレビ等が置かれ、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮されている。壁飾り・新聞・絵画等を貼り、季節感や生活感を取り入れている。今後の工夫としては、季節の花を飾るなども工夫されると更に良いと思われる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	今まで使い慣れた家具やなじみの品物が置かれ、家族の写真等も貼られており、利用者が安心できる居室づくりがなされている。希望者はテレビや仏壇を持ち込まれ、思い思いに過ごせる空間づくりがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			